

 株式会社ニッソウ

33期第3四半期決算発表資料

名証セントレックス:1444

NISSOU
NISSOU

1. 当社の概要について
2. 2021年7月期第3四半期業績
3. 今後について

1. 当社の概要について
2. 2021年7月期第3四半期業績
3. 今後について

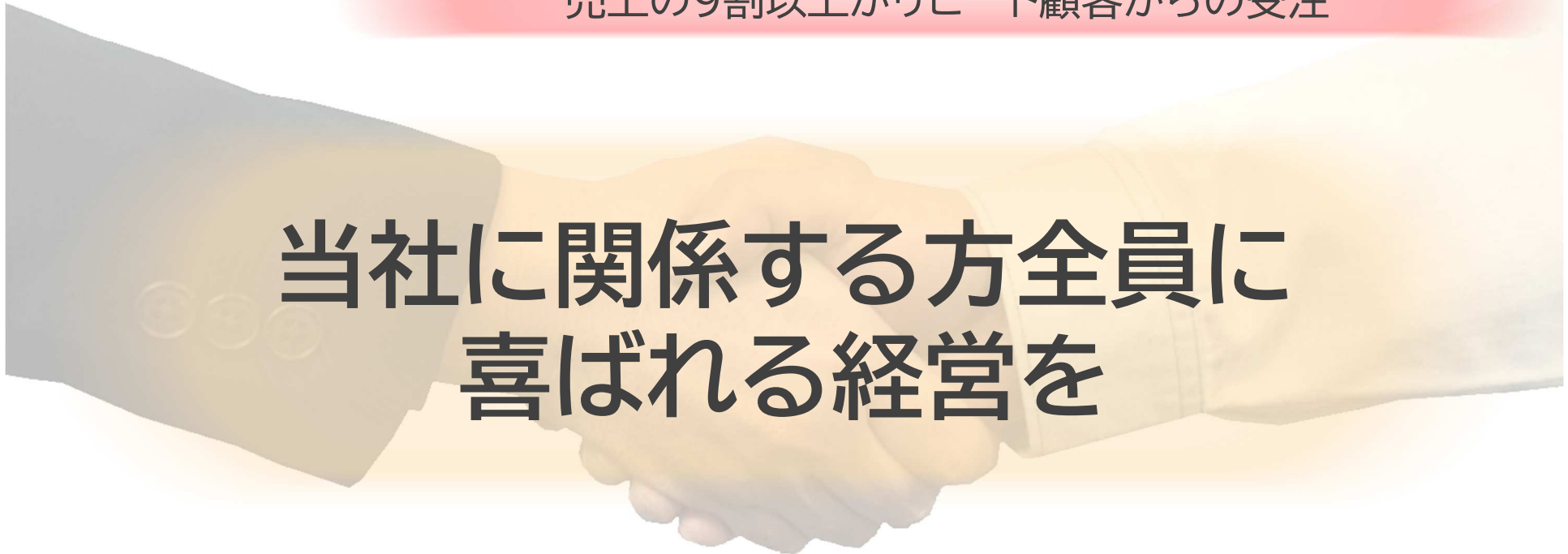
当社について

BtoBに特化した不動産会社専門のリフォーム会社

不動産会社の黒子としてサポート

リフォーム単独セグメントでは唯一の上場企業

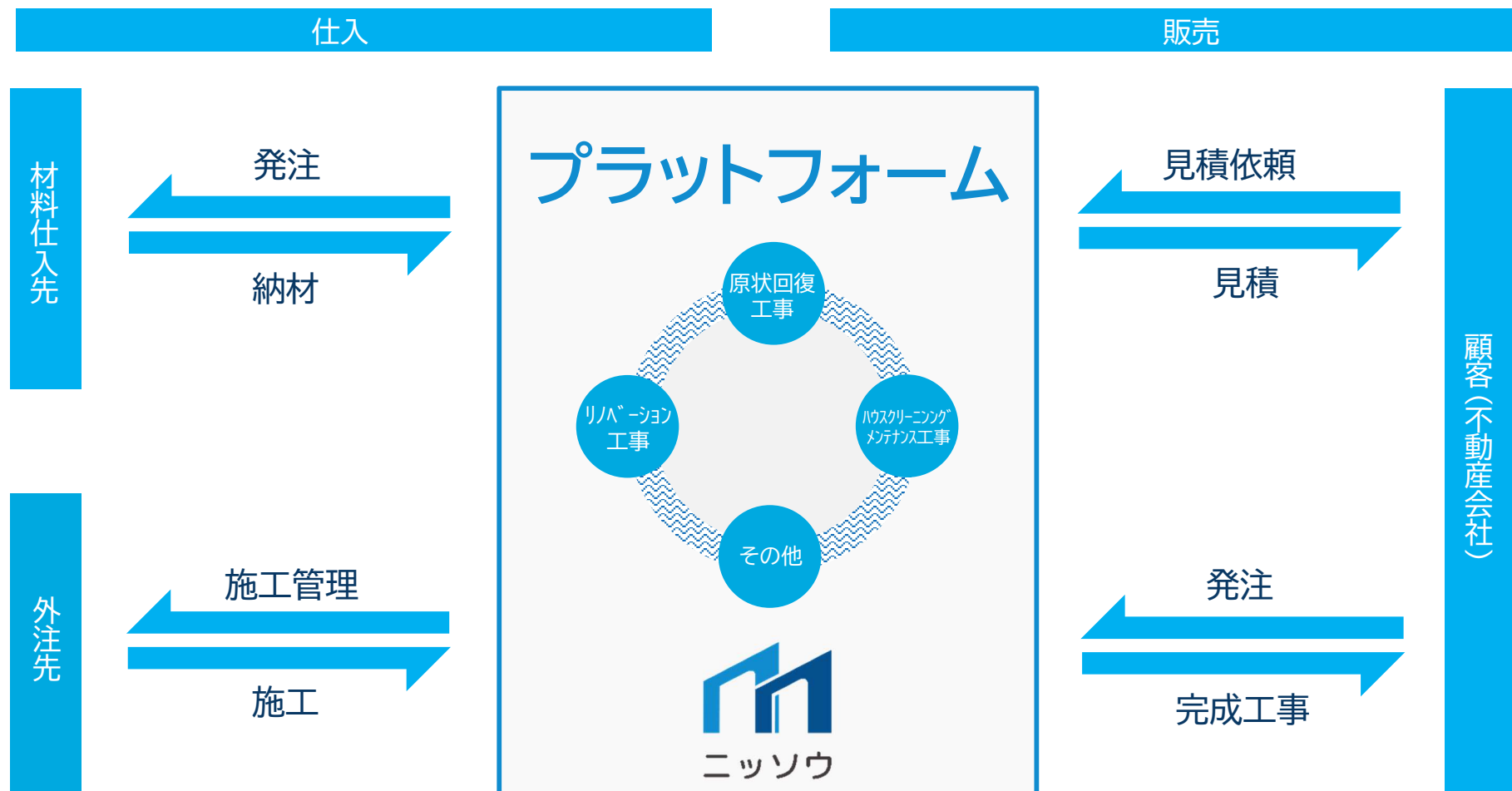
売上の9割以上がリピート顧客からの受注



当社に関係する方全員に
喜ばれる経営を

ビジネスモデル

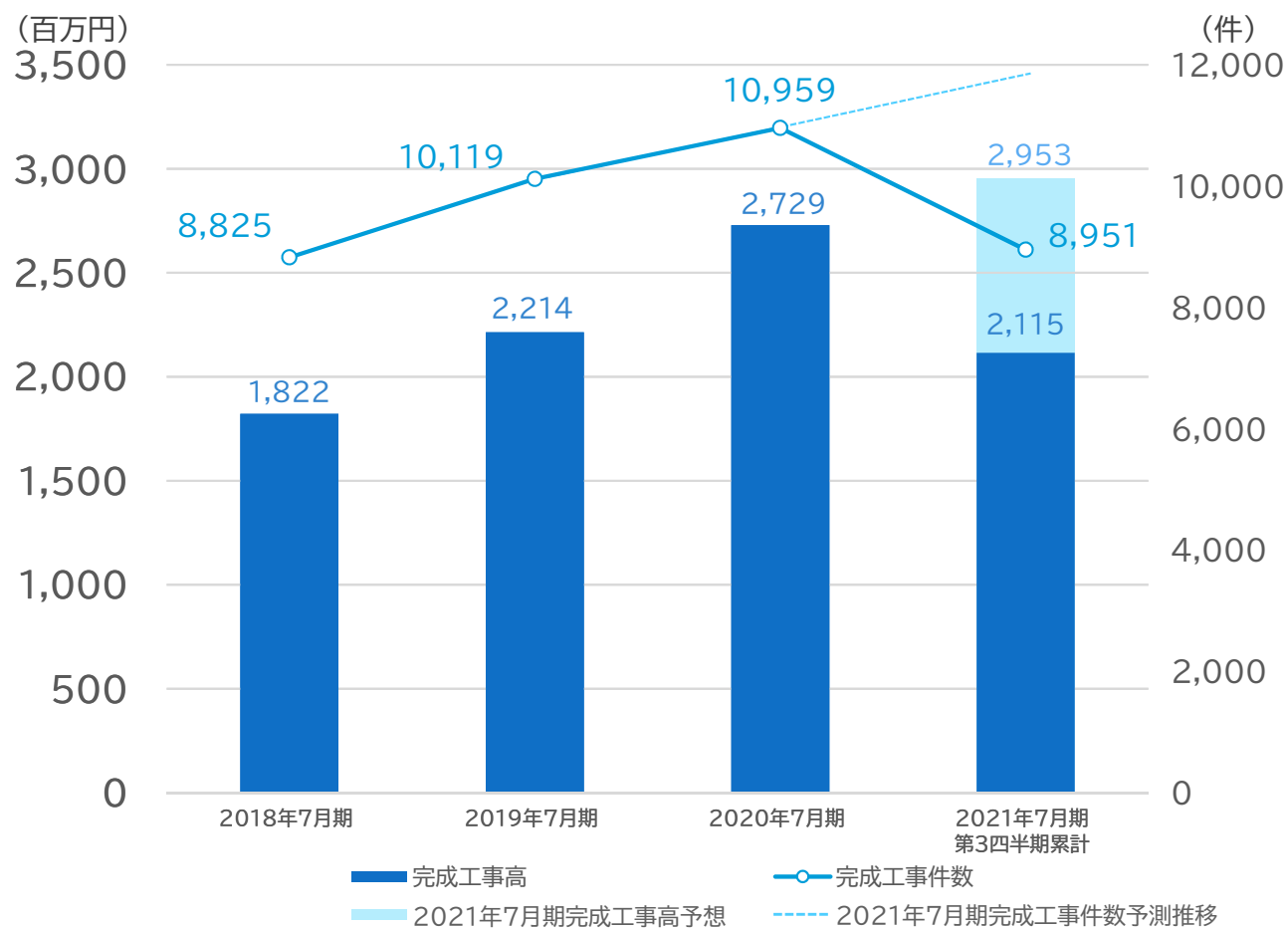
- 顧客と業者をつなぐプラットフォーマー
- 不動産会社の管理・所有している物件に係る各種リフォーム工事をマネジメント
- 主に3種類の工事を施工、その他顧客のニーズにより多種多様な工事に対応



1. 当社の概要について
2. 2021年7月期第3四半期業績
3. 今後について

ハイライト/完成工事高・完成工事件数

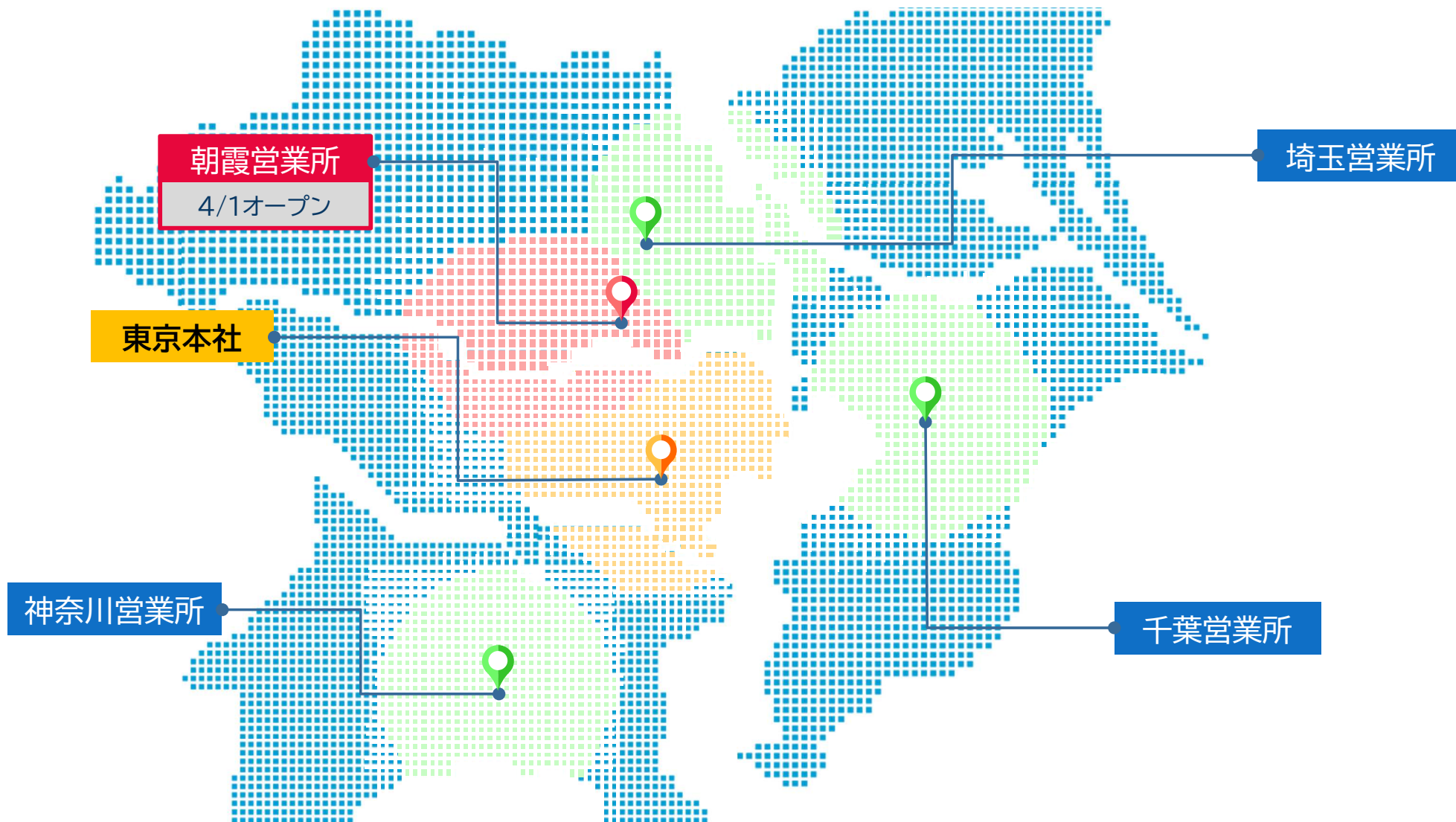
- 3Q累計の完成工事高(売上高)は2,115百万円(前年同期比5.1%増)、完成工事件数は8,951件(前年同期比11.3%増)となった
- 人員増加が主に寄与、結果として売上進捗率71.6%となった
3Q累計の営業利益は116百万円、経常利益は116百万円であった



※本工事件数は各期間中に完工した工事の件数となっており、進行基準の適用による工事件数の増減等は考慮しておりません。

ハイライト/新エリアの開拓

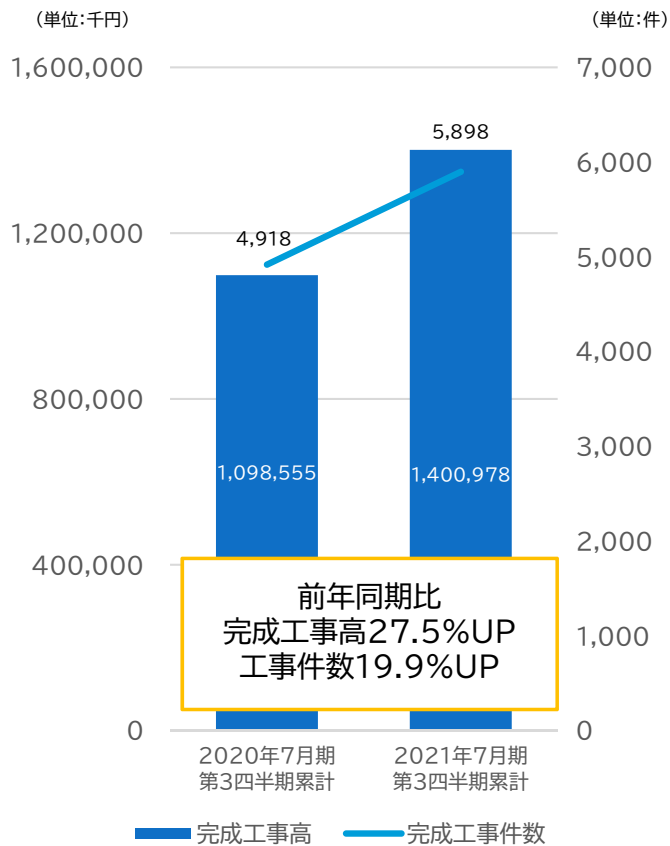
- 4月から朝霞営業所を開設、埼玉西、西東京エリアへアプローチ
- 首都圏エリアの強化を推進中



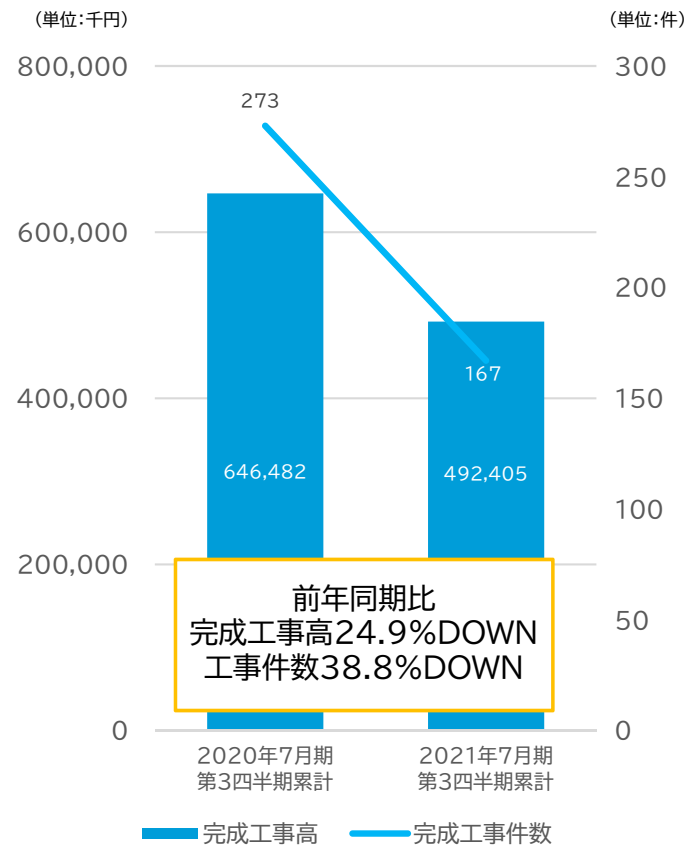
工事種類別/完成工事高・完成工事件数推移

- 原状回復工事、ハウスクリーニング・メンテナンス工事は順調に増加
- リノベーション工事は今期減少
- 市場の投資マインドの低下により、単価が低い原状回復工事へ移っていると考えられる

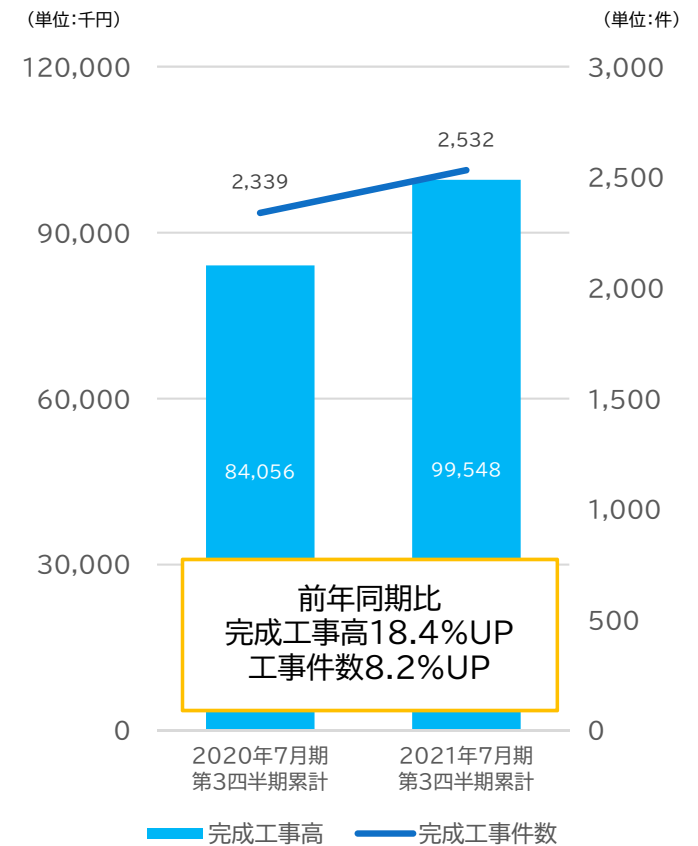
原状回復工事推移



リノベーション工事推移



ハウスクリーニング・メンテナンス工事推移



※本完成工事高、完成工事件数は工事完成基準でのデータとなっており、進行基準の適用による完成工事高の増減等は加味していません。

積極的な人材投資について

- ❖ 従業員こそが売上げの要として人材投資を常に主眼
- ❖ 持続成長をするために人材への投資をより積極的に実行
- ❖ 「人員増強」、「働きやすい組織づくり」による組織基盤の強化で事業力アップを目指す
- ❖ 求人広告に積極的に投資



「人員増強」

- 積極的な採用活動
- 報酬制度の改定
- ブランドイメージの向上
- 従業員への各種研修



「働きやすい組織環境づくり」

- 等級/評価制度の見直し
- キャリアパスの再定義
- 従業員の待遇改善
- 風通しの良い社風・教育体制

広告戦略について

- ▶ ブランドイメージの向上、認知度のアップを目指しTVCMを放映中
- ▶ ラジオCM等も継続して実行
- ▶ 様々な求人媒体を利用し、多種多様な人材へリクルーティング
- ▶ メディアミックスにより、さらなる知名度向上を目指す



TVCM(建もの探訪にて放映)



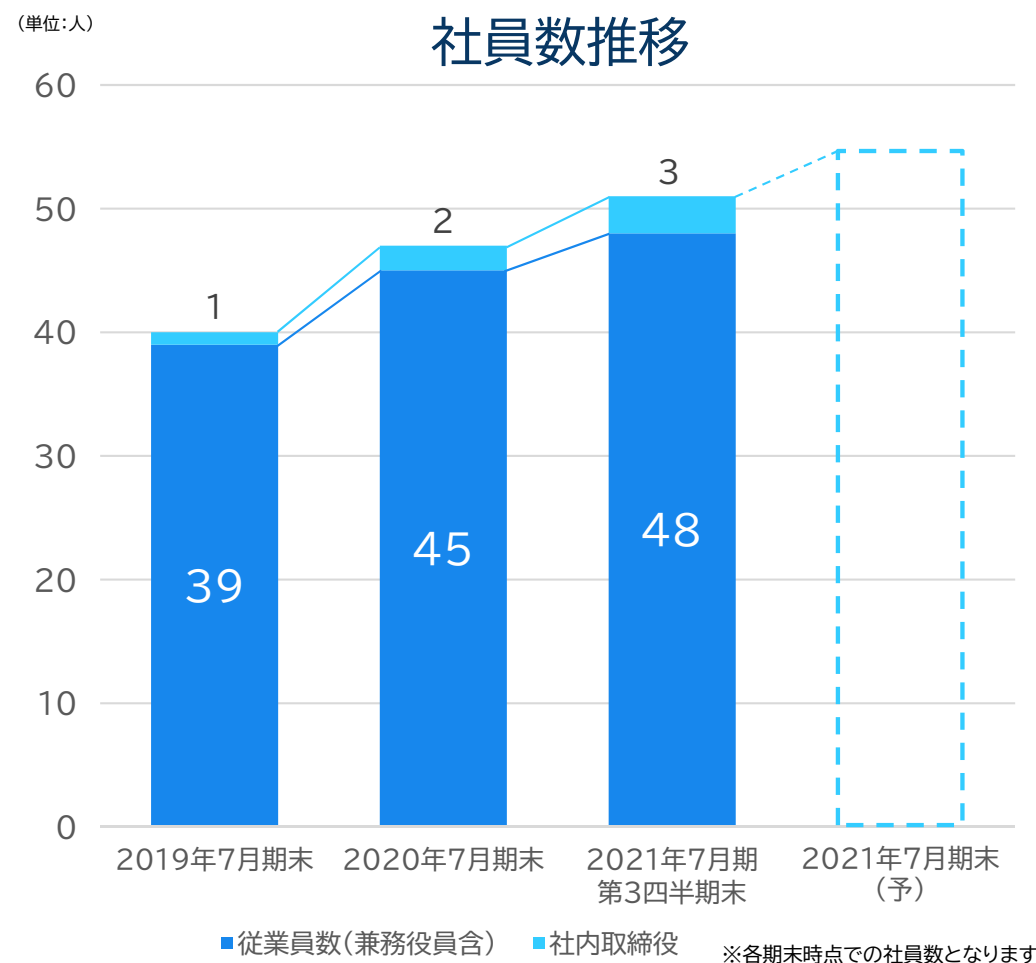
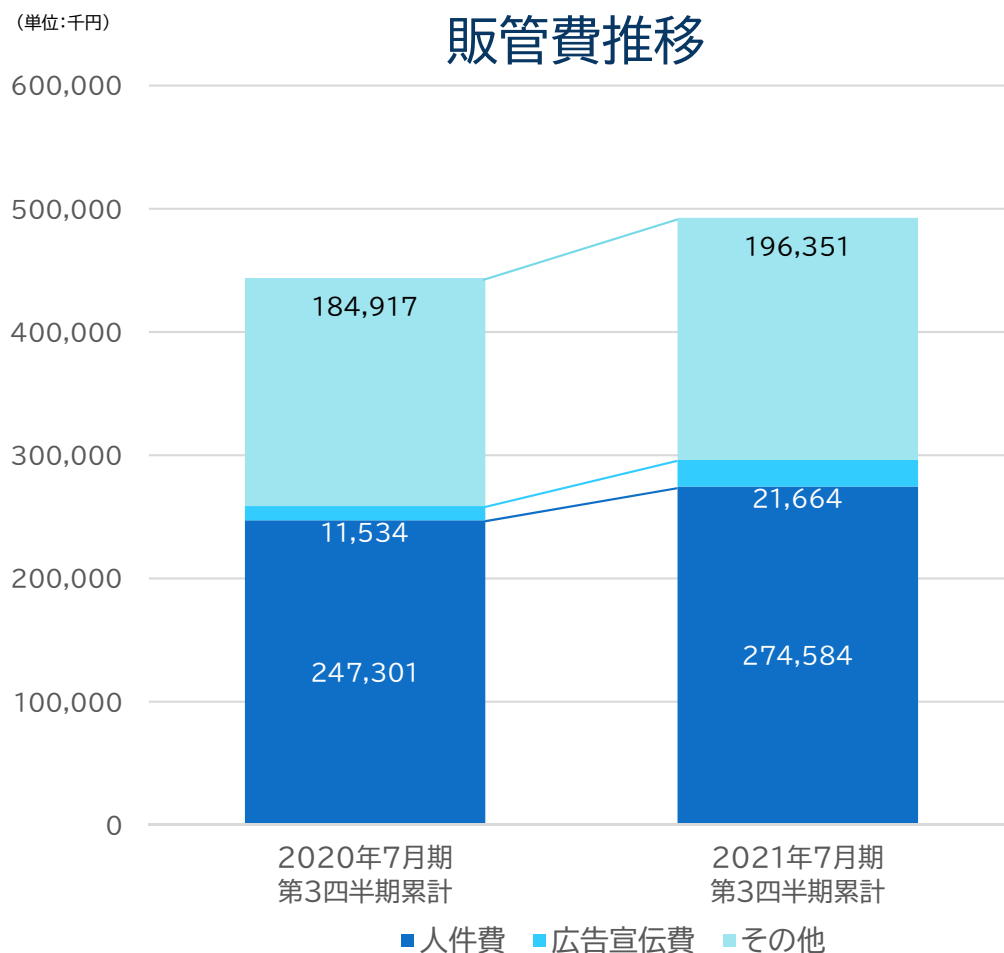
CMキャラクター入り名刺



ラジオCM

販管費・従業員人数の推移

- 工事件数を増加させるため積極的に営業社員を採用、完成工事高増加に寄与
- 前期末より取締役1名、従業員3名増員
- 多くの増員を受け入れられる体制づくりを遂行中
- 今期は広報活動、求人活動に力を入れているため、広告宣伝費も増加

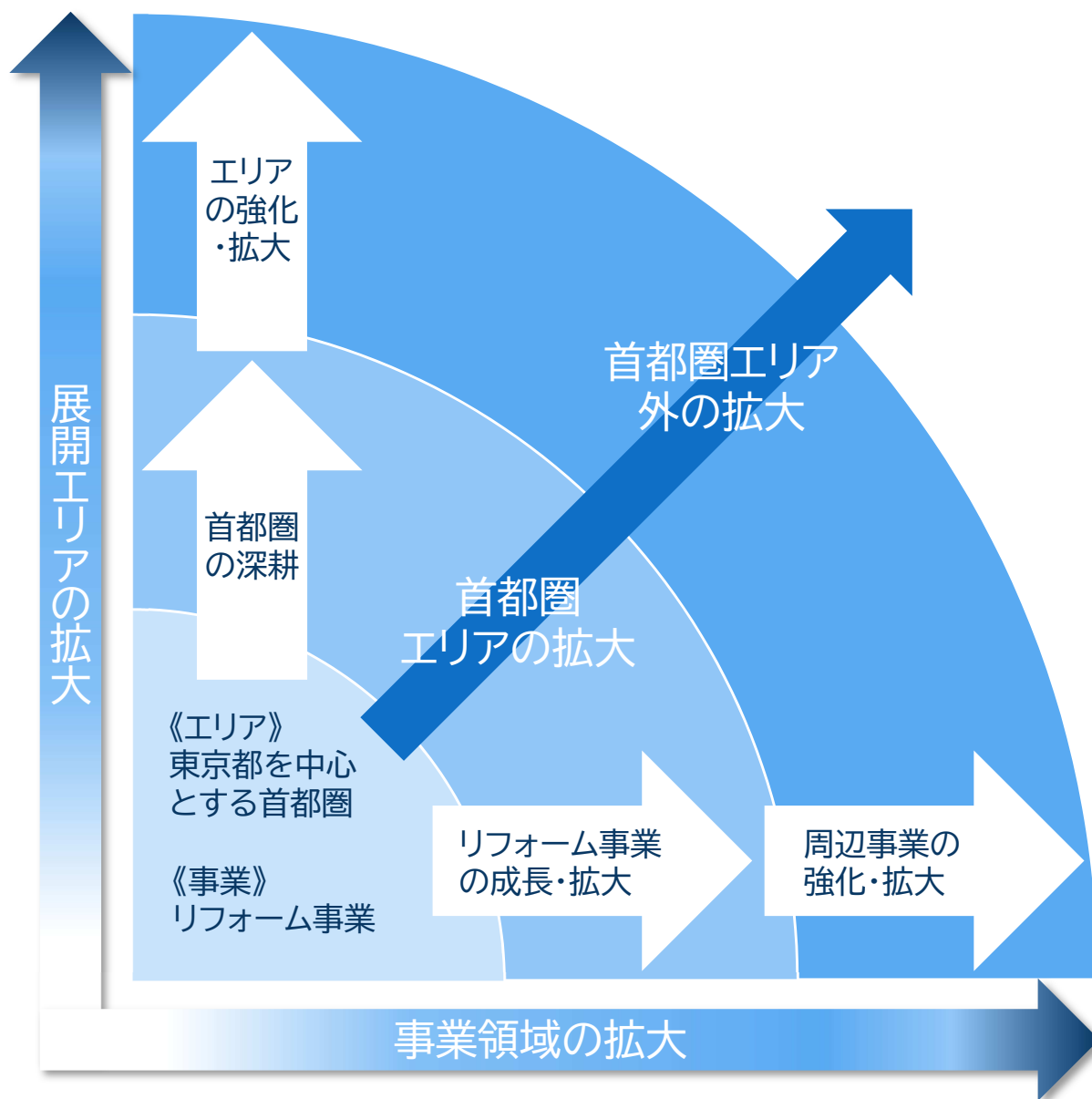


損益計算書(累計期間)の概要

損益計算書 (単位:千円)	2020年7月期 第3四半期累計	2021年7月期 第3四半期累計	増減額	増減率	増減の主な内容
完成工事高 (売上高)	2,011,941	2,115,661	+103,719	+5.1%	人員増加による営業力強化、顧客数増加、工事件数の増加による
完成工事原価 (売上原価)	1,431,096	1,506,175	+75,078	+5.2%	完成工事高が増加したことに伴う材料費、外注費の増加による
完成工事総利益 (売上総利益)	580,844	609,485	+28,641	+4.9%	完成工事高が増加したことによる
販売管理費	443,752	492,600	+48,848	+11.0%	人員増加による人件費の増加、CM放送等による広告宣伝関連費用の増加など将来への投資による
営業利益	137,092	116,885	△20,206	△14.7%	完成工事総利益の増加より販管費の増加のほうが大きかったことによる
営業外費用	11,577	20	△11,556	△99.8%	前年第3四半期のセントレックス市場へ上場のための上場準備費用がなくなったことによる
経常利益	125,762	116,903	△8,858	△7.0%	工事総利益の上昇、営業外費用の減少より、販管費の増加のほうが大きかったことによる
当期純利益	77,656	72,371	△5,285	△6.8%	

1. 当社の概要について
2. 2021年7月期第3四半期業績
3. 今後について

今後の取り組み



【首都圏での戦略】

- ・東京都を中心とした顧客の新規開拓及び既存顧客の深耕
- ・原状回復工事を中心とした地域シェアの拡大
- ・未進出エリアへの営業所開設

【周辺事業育成】

既存3種の工事受注件数増強に加え、外装・共用部工事の受注など周辺事業内容拡大

【新たな展開施策】

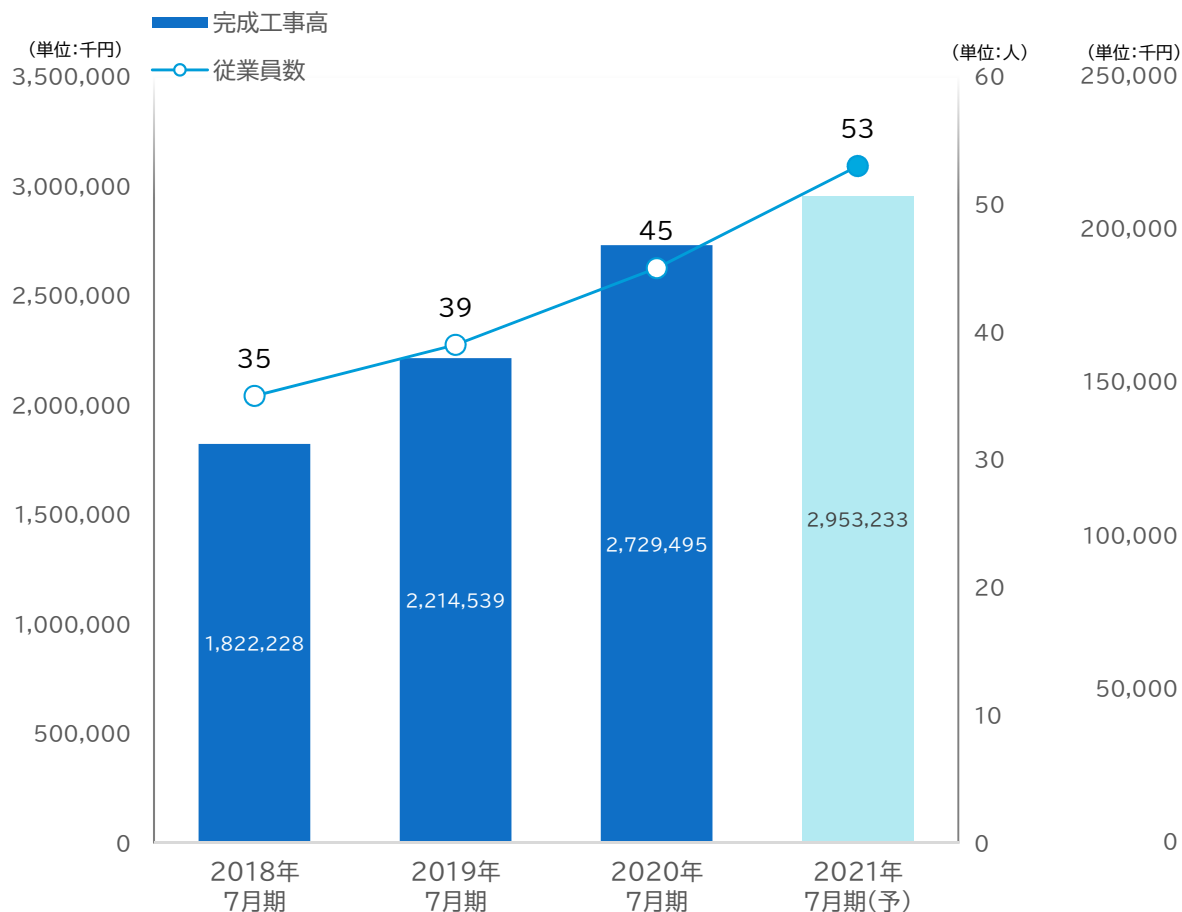
- ・全国エリアへの進出検討
- ・「その他工事」の内、外装工事や共用部リノベーション工事の事業確立
- ・東南アジアへのビジネス展開の模索

直近では首都圏エリアのさらなる強化、
人員確保+人員育成による
売上・件数増加をメインに実施

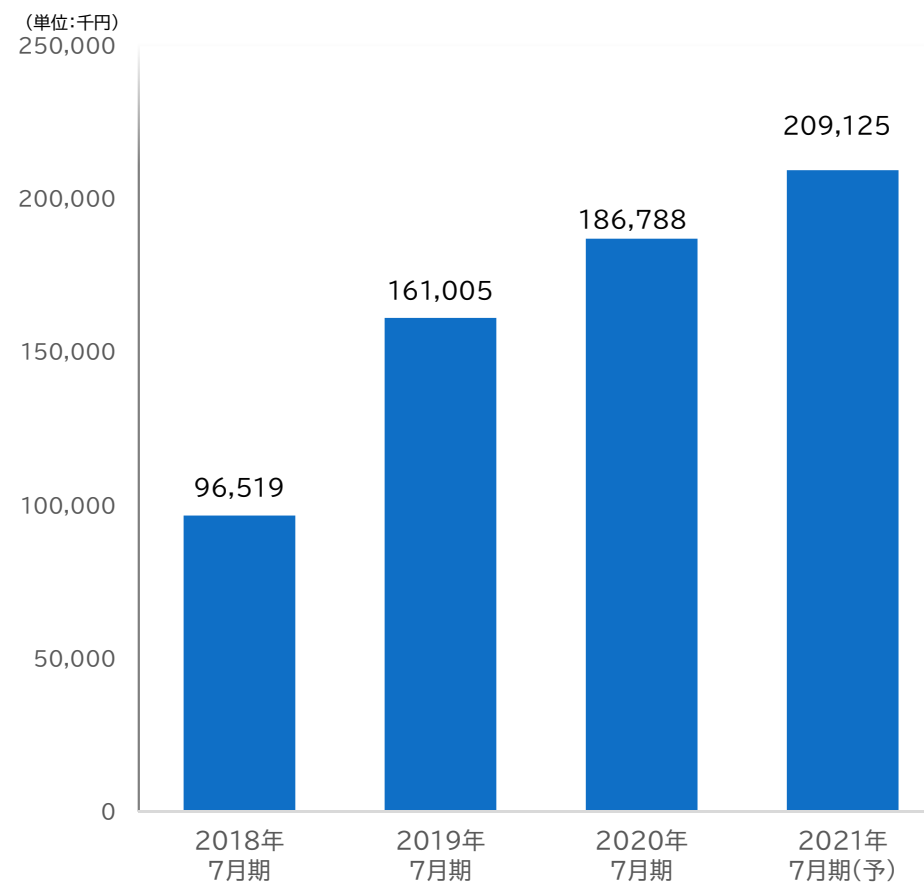
2021年7月期業績予測

- 2021年7月期は完成工事高2,953百万円、経常利益209百万円、当期純利益136百万円を見込む

完成工事高および従業員数の推移予測



経常利益の推移予測



各要因に対する弊社の影響

■ 新型コロナウイルス感染症について

- ・リノベーション工事について完成工事高、完成工事件数ともに減少
コストダウンのため原状回復工事等単価の低い工事へ移行していると考えられる
- ・営業状況や工事の進行についてはスマートフォン、タブレット端末を駆使し、
大きな影響は現在無し
- ・リモート環境の拡充として、新販売管理システムの開発、その他システムの移行を検討中

■ 木材高騰(ウッドショック)について

- ・原状回復工事、ハウスクリーニング・メンテナンス工事では木材使用があまりないため
影響はほぼ無いと考えられる
- ・リノベーション工事、その他工事に関しても木材使用の割合が小さいため
影響は少ないと考えられる
- ・新型コロナウイルス感染症と同様、景況感の低下、市場のマインド低下による
リノベーション工事等大型工事の発注控えが増える可能性があることが懸念事項



不動産リフォームの ニッソウ

【本資料お取扱い上のご注意】

本資料を作成するにあたっては正確性を期すために慎重に行っておりますが、完全性を保証するものではありません。本資料中の情報によって生じた障害や損害については、当社は一切責任を負いません。
本資料中に業績予測ならびに将来予測は、本資料作成時点で入手可能な情報に基づき当社が判断したものであり、潜在的なリスクや不確実性が含まれています。そのため、事業環境の変化等の様々な要因により、実際の業績は言及または記述されている将来見通しとは大きくことなる場合があります。